

総合的な学習の時間

探究的な学習の質を高める学習過程の工夫 ～児童生徒の主体性を引き出す課題の設定場面の充実～

「探究的な見方・考え方」とは

各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けること

単元構想をする際の三つの視点	探究的な学習のための学習過程
単元構想をする際は、 - 児童生徒の興味・関心 - 教師の願い - 教材の特性 の三つの視点から、中心となる活動を思い描くことが大切です。	①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現 ①～④が、いつも順序よく繰り返されるわけではなく、順番が前後することもあります。また、一つの活動の中に複数のプロセスが一体化して同時に行われる場合もあります。

授業づくりのポイント

※ア～ウは授業の例と対応

① 課題の設定 ア 人、社会、自然に直接関わる体験活動を重視する。 イ 児童生徒の発達や興味・関心を適切に把握する。 ウ 児童生徒がこれまでの考えとの「ずれ」や「隔たり」、対象への「憧れ」や「可能性」を感じられるようにする。	③ 整理・分析 収集した多様な情報を整理する段階で、児童生徒自身が情報を吟味することの必要性について考える場を設定する。整理・分析を意識的に行うことで学習の質の高まりにつなげることができるよう、「*考えるための技法」を用いた思考を可視化するツールを活用する。 ④ まとめ・表現 相手意識や目的意識を明確にすること、情報を再構成し自分の考えや新たな課題を自覚すること、伝えるための具体的な方法を身に付け、目的に応じて選択して使うことができるように配慮する。 *考えるための技法：情報を整理・分析することを意識的に行うための技法 「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 小学校p118, 中学校p114」参照
② 情報の収集 目的を明確にして情報の収集を行うこと、体験を通じた感覚的な情報の収集を大切にすること、収集した情報を適切な方法で蓄積することができるように配慮する。	

学習対象との関わり方や出会わせ方を工夫した授業の例（課題の設定の場面）

小学校第4学年 単元名「〇〇川の流れを取り戻そう」	
【小単元1】「〇〇川の様子を探ろう」	
T : 前の時間に〇〇川を調べに行きました。どんなことに気づきましたか。 S1 : ポリ袋やペットボトル等、思ったよりもゴミがありました。 S2 : 魚やアメンボ、カエル等の生き物がいました。 S3 : 川の両岸はコンクリートで覆われている部分が多かったです。	体験活動で得た様々な気づきを紹介し合うことで、学習対象の現実の状況を共有します。 ア
T : これは昔の〇〇川の写真です。今の〇〇川と比べてみて、どんなことに気づきましたか。 S1 : 今の〇〇川と違って、ポリ袋やペットボトルのようなゴミがありません。 S2 : この川でホタルを見たことはありませんが、昔はたくさん飛んでいます。 S3 : 川の両岸は草で覆われています。また、川が今よりも曲がっているところが多いです。	「ずれ」や「隔たり」等を感じさせるために、昔と現在の様子を比較できる資料を提示します。 ウ
T : 今と昔では川の様子が違いますね。昔の川の様子について地域の方から教えてもらいましょう。（ゲストティーチャーから話を聞く。） S1 : ゴミも少なく、川の底がはっきり見えるくらい水がきれいだったんだ。 S2 : 今も川には生き物がいるけど、昔はもっとたくさんの生き物がいたんだ。ホタルがたくさん飛んでいるところを見てみたいな。 S3 : どうして川が汚れたり生き物が少なくなったりしてきたのかな。〇〇川を昔のようにきれいな川にしたいな。	ゲストティーチャーから昔の川の様子について詳しく話を聞くことで、児童の課題意識を高め、その後の探究的な学習活動の原動力になります。 アウ
T : どのような学年テーマにしたらいですか。 S1 : みんなの話から「〇〇川の流れを取り戻そう」がよいと思います。 T : 〇〇川の流れを取り戻すためには、どのようなことを調べる必要がありますか。 S2 : 現在の〇〇川の様子をもっと詳しく調べる必要があると思います。 S3 : 川の生き物について知っている人にインタビューしたいです。 S1 : 川の水の状態を知るために、水質調査をしたいです。	学年のテーマを基に、一人一人の児童の思いや願いを大切に個人の課題を設定できるようにします。 イ